

エボラ研究開発からの教訓～国内開発の成果と課題～

国立保健医療科学院健康危機管理研究部 齋藤 智也

■ 平時の研究リソース

- 高度安全微生物実験施設(BSL-4)
- フィールドでの臨床研究実施能力(ロジ・人員・研究資金)
- 希少感染症に対する研究開発投資の維持

■ “Science Preparedness”の重要性

- 発生が希少な災害事象(新興・再興感染症、新型インフルエンザ、CBRNテロ等)に対する医薬品(または候補品)のヒトでの評価を非発生時に行うことは倫理的に極めて困難
- 発生時の迅速な評価が極めて重要。
 - 発生してからでは間に合わない
 - 候補品の評価、プロトコルの事前作成、倫理委員会の承認、関係機関調整、スタッフの訓練、資金確保等は可能な限り事前に調整すべき。